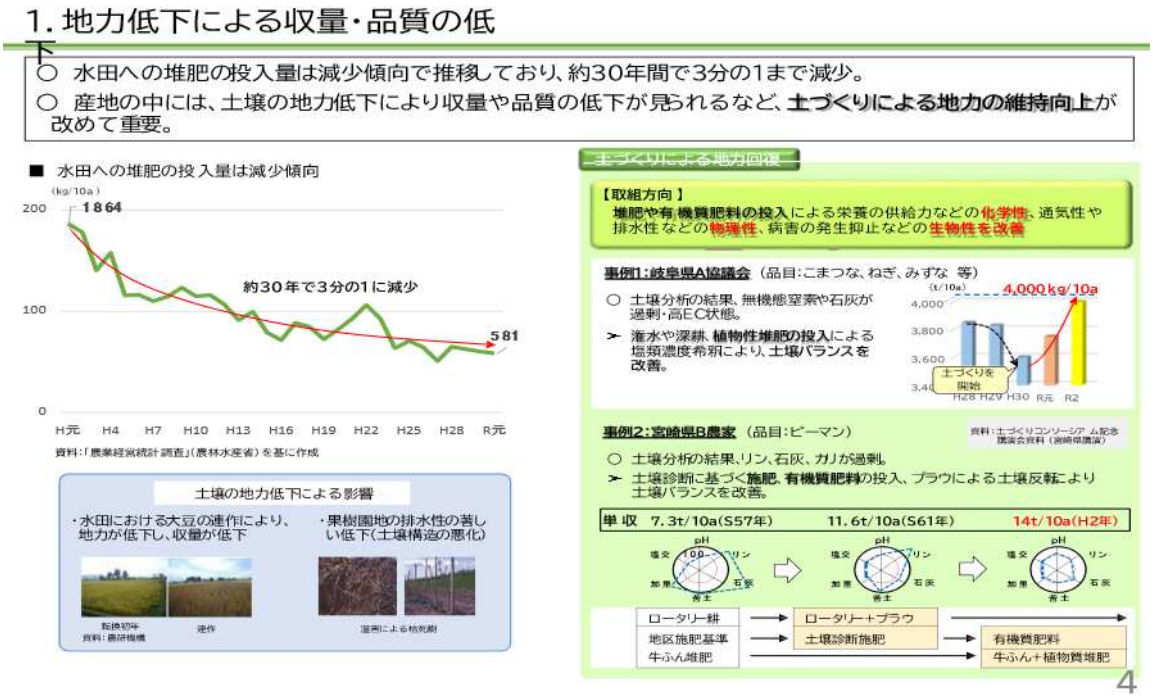
日本の農地はメタボで地力低下の悩み中

南埜 幸信

日本の農業政策の大転換「みどりの食料システム戦略」の策定の背景について、もう少し付け加えをしたいと思います。

日本の農業の現状、問題点、課題をまず整理すると、現在なぜ「みどりの食料システム戦略」を推し進めるのか、オーガニック野菜なのか、が垣間見えます。



上記は農水省が作成した資料の一つです。

現在の日本の農地の特徴として、堆肥等の有機物の投入量が長期的に減少傾向で、「地力」は長期的に低下し、各地で様々な問題が出ています。

「地力」は人間で例えると「人の基礎体力」と同じで、カロリーや栄養の過不足だけではなく、総合的に生きる力、免疫力、健康度合等と捉えた方がわかりやすいかと思います。

農地の基礎体力の低下が長期的に続き、作物の病害虫の発生や収量に影響し、農業の持続性に対して赤信号が点滅している状態です。

一方、資料の右側の欄に記載のとおり、化学肥料で投入される主体の栄養分で

ある、窒素・リン酸・カリ・石灰が過剰しており、人間でいえば栄養の過剰摂取状況になっています。
　それも農地の生産力の持続性に対し、赤信号となっている課題が顕在化しています。
　人間に例えるなら日本の先進的な農地は、化学肥料に頼った大規模単作化の結果、「メタボで基礎体力が低下した状態」となっています。
　正に日本人の健康問題と類似しています。

　生物の多くは、土から育てられた作物を摂取し、身体を作っています。
土の健康と人間の健康は、非常に関係性が高く、密接に関わっています。
　土は単なる岩石の粉ではなく、地球誕生以来の長い生物の歴史の中で積み上げられてきた生命と関わりの深い「財産」であり、微生物と植物の根と調和し、様々な力や複雑なメカニズムを持っています。
　例えば、食品以外の薬なども土の中から発見されたりしています。

「土は生きている」と捉え、その養分を享受したオーガニック野菜を食べて健康を得る為、農地の健康も改善を目指すことが重要です。
　地力を増進する世界全体の現在の方向性は、現在、「オーガニック野菜」への相互の取り組みへと繋がっています。